

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

## ママ友たちと頒布会へ♪

東京都 金野可那子

2月24日の東中野頒布会に、幼稚園のママ友とお子さんと行きました。大人3人、子供7人。食に関心のある方たちで、普段から、菜園金野のお野菜や、山本養鶏場の卵、ジョリフィーユのお菓子、その他、販売物をお伝えし、購入されていました。

ひとりの方は、お子さんに卵や小麦のアレルギーがあり、食べられるものがありませんでしたが、アレルギー除去から段々とゆっくり慣れるよう、ジョリフィーユのマドレーヌひと口から始まり、クッキー数粒など頂いていました。最近では、卵味が強いプリンや、山本さんの卵と無施肥無農薬栽培の作物で調理したものなどを食べられるようになっていきます。子供のおかげで、両親も良いものを食することができると思います。また病気の時も、お薬を控えたりと、自然治癒力を強める努力をしています。



もうひとりの方は、フランスに住まわれていた方で、自然栽培に強い関心を持たれ、無施肥無農薬栽培の作物を近くで購入できることに驚かされていました。頒布会では、おにぎり、お味噌汁、プリンにゼリーにロールケーキ、甘麴にサツマイモフライを堪能し、楽しい時間を過ごすことができました。石川県の森さんの麴も買わせていただき、みんな麴作りをしました！

## 平成から令和へ！ 長柄山自然農園

山本由希彦



平成が終わり令和になろうとしている。平成2年から取り組み始めた自然養鶏や農園についてふり返ってみようかと思う。

平成の時代、私はワクチンや薬を一切使わないで鶏を育ててきた。自然養鶏をしていて病気が出てしまい、ワクチンを打たざるを得ない人の話を聞いた。自然養鶏といっても、ほとんどのところは経済的な理由で、電気点灯による産卵調節を行っている。そこで私は、電気点灯をして鶏に産卵させるのは、鶏に負担が、かかるのではないかと思い、電気点灯をしないで鶏を飼育した。電気点灯というのは、鶏に秋を感じさせないように、1年中コンスタントに産卵をさせるために行うものだ。

色々苦労はあったが、特に大きな病気が出ることもなかった。また、自分の子供も同様、薬やワクチンを使わ

ずに育てた。病気で働くことができなかつた姉も、薬をやめて働きに出かけられるようになった。販売は皆様にご協力いただいて有り難かったが、最初のうちは、皆様に知っていただくまでに時間がかかり、その間の卵がだぶついた分を、夕方子供を連れて駅前の路上に車を止めて売りに行ったり、自然食販売会の催販販売まがいの会場に売りに行ったこともあった。また、パン屋を営む親せきに、一般の卵の価格で引き取ってもらったりして何とか、しのいでいたのが実情だった。それでも、今まで卵を購入してくださった人をはじめ、大勢の色々な方に支えられて、なんとかやってこられた。本当に有り難く、感謝に耐えない。

しかし平成の時代は、ウイルス拡散を防ぐ目的で、史上最多の家畜を殺処分し、地中に埋め込んだ時代でもあった。口蹄疫、豚コレラ、鳥インフルエンザ、世界規模で、DNA 検査という新しい解析技術を武器に、ウイルスを家畜と共に地面に埋め込んだ。

日本に鳥インフルエンザが初めて発生したときは、週刊誌が、パンデミックになったときは何十万人が死亡とか派手に書き立て、ワイドショーのリポーターが養鶏場の社長を追いかけ回して、社長夫婦を自殺に追い込んだ。学校の先生は、全校の集会で鳥に近づかないようにと言った。地元で野鳥のフンからウイルスが発見されたときは、そのニュースがヤフーニュースに載って、各携帯電話に配信された。いつも集配に来る郵便局のお兄さんは、家の養鶏場の入り口で怖がって恐る恐る、「大丈夫ですか、怖いな」と言って、なかなか中に入ってくれなかった。ちょうど平成の半分かくらいから、毎年秋口から春先にかけては、何とも言えない、やるせない気持ちで過ごしているのが実情だ。特にウイルスによる風評被害は、観光業や飲食業を吹き飛ばすには最小にして最大の破壊力がある。

令和の時代の畜産は、しばらくはこのような状態が続いていくだろう。今後、薬を使わずに子供を育てているような若者で、養鶏をやっている人がいたら、風評被害で苦しんでいるときなど、みんなで助けてあげてほしいと願っている。そしてこれからは、岡田茂吉師の理論に共鳴する獣医師や医学博士によるウイルスや病気の研究で、世の中を変えていってほしいものだ。

さて、今年もたくさんの夏野菜の苗を作っている。無肥料の畑の土でポットに1粒蒔きで、12坪くらいのビニールハウスに一杯になる予定。まだ苗は小さいが、去年は畑に毎日ホースで水をやっていたら、なすやピーマンなどだいぶ出来が良かったので、今年ももっと良くなるように頑張っていこうと思う。収量は慣行農法と同等か増産というのは本当に起こり得るのかどうかを確かめるために、取り組んでいきたい。



## 自然農法の甘納豆で元気に！

東京都 鶴野かおり



1月20日の夜、息子が急に高い熱を出しました。翌朝から39℃ありました。おかゆ3口、すりりんご3口と、少し堀さんの甘納豆が食べられました。幼稚園の関係で調べたら、インフルエンザとの診断でした。

昼間になり40℃になったときは、夢と現実がごちゃごちゃなのか、よく分からないことを言うので、私もとても心配になりました。食欲もありませんでした。それでも、堀さんの自然農法の甘納豆だけは1粒ずつ食べることができ、最終的にはひと袋の4分の1くらいを食べました。ほとんど寝ていましたが、時々起きては甘納豆を食べていました。

甘納豆は母から2袋もらったもので、息子が熱を出す前日、ひと袋みんなで食べたので、自然農法の甘納豆だったら食べられるかと思いました。食欲のないときに、甘納豆だけを1粒1粒食べる息子の姿を見て、自然農法の食べものは本当に有り難いと思いました。堀さんの甘納豆のおかげで、高熱を乗り越えることができました。ありがとうございました。

## お知らせ

★ 自然農法頒布会 5月27日(月) 鎌ヶ谷会場 11:00~15:00

## 無施肥無農薬栽培物の販売予定

5月3日 於：伊都能売会館

生産者の方々が直接販売されます。

東京都八王子市長房町57 042-665-6369

- きじま平自然農産：自然米、納豆、甘納豆、きな粉、米粉、かき菜
- 市川生産グループ：ほうじ茶ティーバッグ
- 菜園金野：カブ、小松菜、葉玉ねぎ
- 中島農園：フキ、摘み菜、山うど、梅干
- ジョリフィーユ：みかんジュースゼリー、シュークリーム、クッキー 他

● 長柄山自然農園：卵

お問い合わせ先：編集部 針貝 FAX: 03-3369-3324 e-mail: [naturefarming@torek.jp](mailto:naturefarming@torek.jp)  
TOREK活動のホームページもご覧ください。 <http://www.torek.jp>